

てらこや埋文

2006年
秋

毎年恒例！ 埋蔵文化財資料館 秋の企画展開催

平成 18 年度の企画展を開催します

埋蔵文化財資料館では、毎年秋に様々な考古学資料を素材とした企画展を開催しています。昭和 63 年から始まった企画展も、今年で 22 回目を迎えることとなります。ここ数年は、「地域の歴史を発見しよう」というテーマの下、考古学から見た山口県の地域性を中心とした展示をおこなってきました。これらの企画展示は幸いにも皆さまから多大なご好評をいただきましたが、一方で「遺跡の発掘調査がどのようなものなのかを知りたい」「遺跡の発掘調査に参加したい」といったご要望の声も多く聞かれました。

埋蔵文化財資料館は、山口大学敷地内の遺跡を保護する組織でもあるため、1 年間に数回の発掘調査をおこなっています。しかしながら、発掘調査が緊急を要する場合であることが多く、また危険な環境下でおこなわれることもあるため、なかなかそのような機会を設けられずにいます。

新鮮な情報を提供！

そこで今回は、「吉田遺跡発掘調査速報展 2006」というタイトルで、当館がこの夏におこなった山口市吉田キャンパス（吉田遺跡）での発掘調査の速報展示を企画いたしました。土器や木器などの出土品は未だ整理作業の途中であり、資料の復元も必要最小限にしかおこなっていません。つまり土器や木器が、遺跡の土の中でどのように埋まっていたのかを想像しやすい形で展示しています。多くの考古資料は、展示品のようにバラバラの状態で埋もれているものなのです。資料の復元過程を見ていただくことで、整理作業に根気や繊細さがいかに必要かを感じ取っていただけたら幸いです。

また、調査風景の写真パネルも多数展示いたします。今年の夏を思い出しながら、写真と展示品をじっくりとご観覧いただいて、発掘調査の状況をいろいろとご想像下さい。目の前に浮かぶ風景が、とても楽しいものであることを願っています。（ここだけの話ですが、夏の発掘調査はとても過酷なお仕事です…）

より楽しく観覧するために

埋蔵文化財資料館では、ホームページ内（<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~yuam-w/Shiryokan/home/>）に「遺跡の調査の方法」というページを設けています。企画展観覧前にご覧いただくと、展示内容がより分かりやすいものになると思います。是非一度お試し下さい。また、展示内容についてご質問などがありましたら、事務室に館員がおりますのでお気軽に声をかけてください。

開催期間中の資料館展示室は、室温が大変低くなっております。風邪をひかれぬよう、暖かい服装でご来館ください。それでは、館員一同皆さまのご来館を心よりお待ちしております。（横山成己）



平成 18 年度
山口大学埋蔵文化財資料館 第 22 回企画展

吉田遺跡発掘調査速報展 2006

開催場所 国立大学法人山口大学埋蔵文化財資料館
開催期間 平成 18 年 11 月 20 日（月）～平成 19 年 3 月 2 日（金）
開館時間 午前 9 時～午後 5 時
休館日 土・日曜日、祝祭日、12 月 28 日～1 月 4 日
※休館日に入館ご希望の方は、事前にご連絡下さい。
団体のお客様に限り対応いたします。

入館料 無料



分銅形土製品

分銅形土製品とは？

分銅形土製品とは、「分銅」という江戸時代に両替商が使っていた天秤で重さを量る錘の形に似ていることから、この名で呼ばれるようになった弥生時代の土版状土製品です。中、四国地方を中心として、西は福岡県、東は石川県までの間で見つかり、顔の表現や全体の形に地域ごとの特徴があることが知られています。山口県内からは東南部を中心として、これまでに約50点の分銅形土製品が見つかりました。これらの分銅形土製品は四隅が角張っており、細い粘土紐を貼り付けることによって眉と鼻がくっきりと表現されていることが特徴で、愛媛県でも同様な形の分銅形土製品が多数見つかりました。

謎の用途

分銅形土製品は遺跡から完全な形で見つかることは極めてまれで、大半が破片の状態出土します。また、ほとんどが集落跡で見つかることから、集落内で使われたお祀りの道具であり、廃棄の際に打ち割られたものと推測されますが、具体的にどのように使われたのかよく分かっていません。山口県から見つかった分銅形土製品の耳の部分には穴がけられているものが多いことから、つるして使ったのか、あるいはお面のように顔につけたのかもかもしれません。

当館所蔵の分銅形土製品

吉田キャンパスでは、総合図書館敷地から分銅形土製品が1点見つかりました。上半部が欠けており、下半部のみ残存しています。また、当館所蔵の周南市熊毛町天王遺跡、岡山遺跡で見つかった分銅形土製品は上半部のみ残存しています。1と2は眉と鼻を表現した粘土紐をはがれた跡が残っており、1の顔面の周囲は、細い棒状の工具を突き刺してつけた刺突文で囲まれています。これらはいずれも集落内で使用されたものと考えられます。皆さん、どのように使われたのか想像してみてください！（田畑直彦）



1 岡山遺跡



2 天王遺跡



3 天王遺跡



4 吉田遺跡
(総合図書館敷地)



埋蔵文化財のお仕事 vol.6

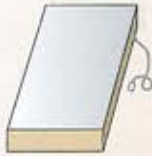
このコーナーでは、多岐にわたる埋蔵文化財の仕事を紹介します。埋蔵文化財の仕事では土を掘る体力も必要ですが、実は正確さ・緻密さが非常に重要で、根気のいる作業が多いのです。今回紹介する埋蔵文化財のお仕事は…

トレース

トレースとは、実測図を製本用に清書する作業のことです。線の太さを色々変えて、実測図より見やすい図面にします。最近では、「CAD」というソフトを使ってパソコン上で処理する人も増えてきています。

～使用するもの～

ライトボックス



製図ペン



製図用消しゴム



トレーシング
ペーパー



ドラフティング
テープ



手袋



～トレースの方法～

1. トレースする図面の四隅に「+」の印を描きます。その上にトレーシングペーパーをかぶせます。トレーシングペーパーの端をドラフティングテープで留め、図面と固定します。
2. 1をライトボックスに載せライトを点けます。トレーシングペーパーの上から先ほどの「+」の印をなぞります。これは、トレーシングペーパーがずれた時にもう一度位置を合わせるための工夫です。
3. 図面を汚さないように手袋を着けたら、「+」の印同様、図もなぞっていきます。製図ペンは傾きや動かす速度によって線の太さが変わるので気をつけましょう。線がはみ出した時などは、製図用消しゴムで消したりナイフで削りとりします。
4. 全体をなぞったら、ドラフティングテープを剥がして図面をはずして完成です。
(植木美佳)



製図ペンは、描く図面の内容によってペン先の太さを使い分けます。

発掘調査で使う測量機器 vol.2

平板 (へいばん)

発掘調査において、遺跡の平面形を記録する必要がありますが、その際使われるのが平板です。水平に設置して、方向や距離を測ります。二人で測量します。

使用例 (1/100の図面を作成する)

地点1と灰色の四角形ABCDの位置関係を記録したい。基準点に設置した平板から、アリダードを覗いて地点Aに方向を合わせる。次に、地点1から地点Aの距離を巻き尺で測る。仮に380cmだった場合、アリダードの1/100定規を使って、図面上の基準点から3.8cmの所にAの位置を記録する。

同じように地点Bに方向を合わせて、地点1と地点Bの距離を測り、記録する。地点C、Dも同様に測量すれば、地点1と四角形ABCDの位置関係を記録することができる。

平板から近すぎる地点や遠すぎる地点を記録するのは難しく、精度もおちますので、適当な場所に平板を移動させて記録しましょう。
(有本浩紀)



平板

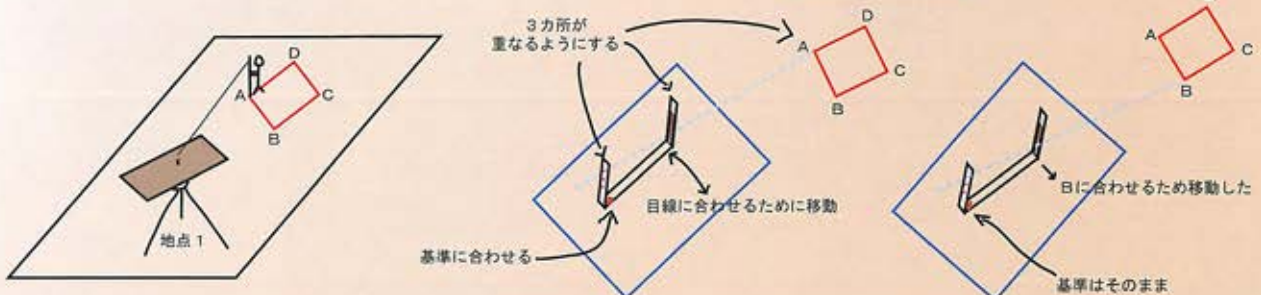


ポール



アリダード

平板上で対象物を覗き込み、方向を合わせるために使います。写真の左にある3カ所の穴のどれかをのぞき込んで、対象物と写真右にある糸が重なる部分に方向を合わせます。定規の0は基準に合わせておきます。



山口市小郡文化資料館

山口市小郡文化資料館は、山口市小郡の中心部、小郡総合支所前に位置します。入館者は年間約1万人で、旅行会社の種田山頭火ツアーの団体客や小学校の社会見学・総合学習など、広く活用されています。

資料館1階には、小郡ゆかりの俳人「種田山頭火」の展示室があり、山頭火直筆の書やゆかりの品々が多数展示されています。2階は江戸時代の古民具、小郡所在の遺跡から出土した土器などの文化財、小郡の近代芸術家の作品など多彩な展示内容となっています。これほど充実した内容の資料館でありながら入館はなんと無料！館の運営にはいろいろとご苦勞がおありなのではないでしょうか？林祐子学芸員に館の特色などについてお話をうかがいました。

（質問）小郡文化資料館の特色を教えてください。

林「小郡ゆかりの芸術家や地域の歴史の紹介など、地域に密着した活動を目指しています。」

（質問）2F ギャラリーは一般の利用可能という案内がありましたが、実際利用者はどのような活用をされていますか。

林「写真展や絵画展・生け花展など、いろいろな活用をされています。毎年同じ時期に個展をされる常連の方もいらっしゃいます。ギャラリーの使用料も無料となっておりますので、気軽にもっとたくさんの方に利用していただきたいですね。」

小郡文化資料館では、11月29日からはギャラリーで「山口県創作版画会第12回版画展」が、そのあとも写真展や木彫り作品展など続々と開催されます。また、平成19年1月からは企画展「山頭火フォトコンテスト入賞作品展」が開催されます。

多彩な展示と、地域交流の場として親しまれる小郡文化資料館に皆さんも足をはこばれてみてはいかがでしょうか。（植木美佳）



展示を説明していただいた林学芸員



小郡文化資料館オリジナルの山頭火しおり。無料で配布されている。

お問い合わせ先
山口市小郡文化資料館
〒754-0002 山口市小郡下郷 609-3
Tel 083-973-7091
ホームページ
<http://www8.ocn.ne.jp/~cm-ogori/>

2006年夏 埋蔵文化財資料館の活動

- 7月 7/3 (月) 第3回大学情報機構埋蔵文化財特別展（於：山口大学総合図書館）『山口県遺跡めぐりシリーズ2 美濃ヶ浜遺跡』オープン。
※開催期間：平成18年11月3日（金）まで。
7/3 (月) 吉田構内第1学生食堂（吉田遺跡）で立会調査を実施。
7/7 (金) 吉田構内図書館前広場（吉田遺跡）で立会調査を実施。
7/20 (木) 吉田構内仮設プレハブ校舎（吉田遺跡）で立会調査を実施。
- 8月 8/7 (月) 吉田構内仮設プレハブ校舎（吉田遺跡）で立会調査を実施。
8/8 (火) 吉田構内共通教育棟本発掘調査終了。
8/9 (水) 吉田構内農学部附属家畜病院本発掘調査の成果を記者発表。
8/22 (火) 吉田構内農学部附属家畜病院本発掘調査終了。
- 9月 9/11 (月) 吉田構内共通教育棟（吉田遺跡）で立会調査を開始。
- 10月 10/7 (土) 公開授業『古代人の知恵に挑戦！—古代のお米をつくってみよう—』第4回授業開催。
10/13 (金)・10/16 (月) 工学部構内にて確認調査を実施。
10/21 (土) 公開授業『古代人の知恵に挑戦！—古代のお米をつくってみよう—』第5回授業開催。



農学部附属家畜病院本調査の記者発表風景



公開授業（第5回授業）の様相